

事務事業評価調査

担当課	教育委員会	生涯学習課	女性未来館ピュア係	事務事業No.	15124	
事務事業名	女性未来館ピュア運営事業					
会計	一般会計	款	5	項	1	
		目	2			
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	42
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供				
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進				
個別計画					頁	
事務事業の目的	対象(誰を・何を)	新規就業者、中途採用者希望者を含む女性労働者及び勤労家庭の女性を対象に円滑な就業の促進や資質の向上を図るための援助を行う。				
	意図(どういう状態にしたいのか)	女性問題に関する啓発活動を通じて問題意識の喚起や女性の意識向上を積極的に推進する。				
主な業務内容	女性のための各種講座や講演会及びサークルなどが円滑に活動できる管理体制を図る。託児ボランティア活動の人材育成の実施。					

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
	総事業費(決算額)	4,179,239 円	4,137,754 円	3,795,170 円					
	財源内訳								
	特定財源	円	円	円					
	一般財源	4,179,239 円	4,137,754 円	3,795,170 円					
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度(R3)	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	女性未来館ピュア講座	回	16	16	14	15	93.3%	15
	②	サークル育成事業	件	8	8	10	8	125.0%	8
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度(R3)	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	ピュア講座(公民館共通系)参加者数	延人数	950	787	579	800	72.4%	800
	②	公民館・ピュア利用者数	団体	81	84	80	80	100.0%	80
	③								
2. 数値で表せない効果		(指標①)子育て世代の講座参加を促すための託児を実施するとともに、教養の幅を広げ、シニア世代の健康増進、生きがいの場の提供。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	点数	高い	高い	普通	一部重複	高い	適正である					
評価理由	<p>コロナ禍での講座、サークル活動開催ができない中ではあったが、今までになく工夫を凝らす事ができた。また、そんな中での講座・サークル活動は、参加者にとって生きがいと、各自のリフレッシュに繋がると確信。当面の間、人数の制限が続くと予想される中、安心、安全面を充実させ生きがいある場づくりつなげたい。</p>											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について(目的に対する現状など)
<p>事業のマンネリ化防止として「生きがい」を持てる講座の提供を心掛ける。また生活面の講座(マネー講座)等は、ハードルが高いと思われる受講者が限られる。子育て世代のための講座(例ベビーマッサージ等)は少子化に伴い受講者のない状態が続く。また、若い世代は広報を読まないため、講座への周知が難しく受講者が集まらない。そのため受講者が決まってしまう傾向が続く。・高齢化が進み長く続いたサークル活動の減少が増えるため作品が減少し、ピュアフェスタ等の発表の数も少なくなった。</p>
改善の方法等(上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容)
<p>講座のマンネリ化防止策として質の高い講師、受講者の興味ある講座に心掛けたい。若い世代には、モノ作りなど子育ての疲れを癒せる講座を取り入れたい。(例えばアロマセラピー・漢方薬の使い方・手相講座・親子の簡単料理他)また女性講座(企画企画型)講座ではコロナ禍の影響もあり、実施回数・人数の減等見直した。利用者の高齢化が進み、無理のない生きがいの持てる場づくりを提供していくことで継続が図れると思う。なお、若い世代の講座への参加収集は、広報、新聞等の両立と声がけた、若い世代のクチコミで参加の呼びかけをしている。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	八坂公民館	係	事務事業No.	110128		
事務事業名	山村留学支援事業							
会計	一般会計	款	10	項	1	目	2	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	39	頁
	施策目標	心豊かにたくましく生きる子どもの育成						
	施策項目	地域で育む教育の推進						
個別計画	第4次大町市生涯学習推進プラン						37	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人 育てる会 ・大町市八坂・美麻山村留学推進協議会 			山村留学生の積極的な受け入れにより、複式学級の回避を図るほか、多方面で教育効果の向上に努め、地元小中学生と留学生相互の健全な成長を助長する。また、保護者や地域と都市住民との交流を促進し、地域の活性化につなげる。				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・山村留学事業主体の「公益財団法人育てる会」への補助金交付 ・山村留学生受入農家への助成金交付 ・旧市内小学生の「夏休み農山村交流体験活動」（短期山村留学）への参加助成 							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度			
	総事業費（決算額）		20,141,360 円	20,414,160 円	20,395,000 円				
財源内訳	特定財源		17,545,000 円	14,840,000 円	17,032,000 円				
	一般財源		2,596,360 円	5,574,160 円	3,363,000 円				
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	受入農家数	戸	10	8	9	10	90.0%	10
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	山村留学児童生徒数	人	32	30	32	32	100.0%	32
	②								
2. 数値で表せない効果		（指標①）山村留学生と地元の児童生徒は、お互いを尊重し合い、切磋琢磨し学習に取り組んでいる。また、山村留学OBとの交流を通じ、棚田での米づくりを行う等、都市との交流を積極的に行い地域の活性化につながっている。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続
		高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である				
評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である	継続	17			
点数	3	3	3	3	2	3		18			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・山村留学生の受け入れにより、児童、生徒数が増加し複式学級の回避など、学校の維持、発展につながっている。 ・特色ある教育の実施や相互交流により、児童、生徒の健全な成長を助長している。 ・地元農家へのホームステイや地域行事への参加により、地域の活性化に寄与している。 ・昭和51年に旧八坂村から始まった山村留学はその効果が認められ、現在では全国で実施されている。 										

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ農家は、新たに八坂1戸、美麻1戸が増加したが、既存の農家1戸が取りやめたため前年に比べ1戸増となった。農家の高齢化が進んでいるため、計画的な取組みが必要である。 ・コロナ禍により、夏休み等の長期休暇に行く短期山村留学が全て中止されたほか、長期留学生の都市への移動による感染対策が課題となった
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・受入農家の負担軽減を図るため、ホームステイの日数や宿泊費等について（公財）育てる会と検討する。 ・地区住民の山村留学への理解をさらに深めるため、現状や必要性、魅力について積極的に広報していく。 ・（公財）育てる会は、山村での生活体験を受け入れ農家とともに行うことを山村留学の理念としているため、将来的にも受け入れ農家の確保に努め、寮と農家の併用方式を維持していく。 ・コロナ感染対策は、前年に続き八坂美麻山村留学推進協議会を通じて支援していく

事務事業評価調査

担当課	教育委員会	生涯学習課	生涯学習・青少年係	事務事業No.	110414		
事務事業名	エネルギー博物館運営費助成事業						
会計	一般会計	款	10	項	4		
				目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築					
個別計画	第7期社会教育計画				50	頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）				
	エネルギー博物館運営に対する助成		科学的思考を喚起する貴重な学びの場の社会教育施設として安定した運営維持。				
主な業務内容	経常経費分と修繕工事等臨時的経費分の補助						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		13,013,000	円	12,684,000	円	13,039,000	円	
	財源内訳	特定財源		円		円		円	
			一般財源	13,013,000	円	12,684,000	円	13,039,000	円
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	開館日数	日	189	189	144	200	72.0%	189
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	入館者数	人	8,122	7,401	4,766	10,000	47.7%	8,000
	②	入館料	円	2,222,500	1,947,950	1,056,260	2,700,000	39.1%	2,000,000
	③								
	2. 数値で表せない効果								
		（指標①）							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		普通	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
	点数	2	2	2	3	2	3		継続	14
										18
評価理由	近隣では珍しいエネルギーを中心とした博物館であり、科学的思考を喚起する場の社会教育施設として、安定した運営維持を図るために支援は有効。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
貴重な社会教育施設として安定した施設運営を図るため、運営主体である公益財団法人に対し運営費を補助しているところである。法人では、イベントや講演会等を企画し、入館者増に向け努力を重ねている。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
新型コロナウイルス感染症の影響で来館者数の増加は見込められない状況であるが、エネルギーを中心に科学分野の学びの場の社会教育施設として市内・県内の学校や育成会へ働きかけ、少しでも自主財源の確保に繋がるよう支援をする。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	生涯学習・青少年係	事務事業No.	110415		
事務事業名	公民館分館整備助成事業						
会計	一般会計	款	10	項	4		
				目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築					
個別計画	第7期社会教育計画				50	頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）				
	公民館分館及び地域集会施設の施設整備等に対する補助		地域の拠点となる公民館や集会施設の施設整備に対する補助を行うことにより、環境整備が図られ生涯学習・自治会活動の拠点とし活性化を図る。				
主な業務内容	施設の改修・改築などに対し対象経費の1/3を補助（上限あり）						

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
	総事業費（決算額）	828,000 円	6,090,000 円	2,773,000 円					
	財源内訳	特定財源	円	円	円				
		一般財源	828,000 円	6,090,000 円	2,773,000 円				
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	整備件数	件	1	2	2	1	200.0%	1
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①								
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果									
（指標①） 自治会や地区の活動拠点となる施設が整備されることにより、地域の活動の継続・発展が見込まれる。									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	17
	点数	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である					
評価理由	地域の拠点となる施設整備の必要性は高く、施設整備について多くの相談がある。制度の活用により施設整備が促進されることで、環境整備が整い生涯学習・自治会の拠点として一層の活性化が図られる。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
地域のコミュニティ施設である公民館や集会所の施設整備は、老朽化に伴う改修や下水道接続などの要望が多いことから、今後も継続していくことが必要である。引き続き、補助金の活用を図るためにも制度の周知を図る。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
毎年、9月号広報で制度について周知。引き続き、継続する。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	生涯学習・青少年係	事務事業No.	110416		
事務事業名	生涯学習推進事業						
会計	一般会計	款	10	項	4		
		目	1				
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築					
個別計画	第4次大田市生涯学習推進プラン					1	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）				
	一人一人が自ら生きがいを持ち、主体的に心豊かに人生を歩める生涯学習社会の推進を図る。		その生涯にわたってあらゆる機会、あらゆる場所において、学習することができる環境の整備とともに、その主体的な学びの成果を地域に生かし、還元できる生涯学習社会の推進。				
主な業務内容	公民館などの社会教育施設における各種事業の取り組みの推進のほか、生涯学習社会の推進を図るため生涯学習推進プランに基づき、関係部署における全市的な取り組みの進捗管理の実施。 また、生涯学習・青少年係として担っている事務事業名の「生涯学習推進事業」の主な事業内容は、リーダーバンク制度、職員出張講座、「がったつうしん」の発行、郷土冊子の作成となっている。						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		24,789	円	796,835	円	742,067	円
	財源内訳	特定財源		円		円		円
			一般財源	24,789	円	796,835	円	742,067

活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	がったつうしん	回数	4	4	4	4	100.0%	4
②	リーダーバンク登録者	人	63	62	55	70	78.6%	59
③	リーダーバンク登録者バンク登録団体	団体	18	18	18	25	72.0%	25

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①							
②								
③								

2. 数値で表せない効果								
（指標①）								
自治会や地区の活動拠点となる施設が整備されることにより、地域の活動の継続・発展が見込まれる。								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	普通	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
点数	2	2	2	3	2	3	18			
評価理由	生きがいを持ち心豊かな人生を歩むためには、生涯学習社会の推進は必要である。生涯学習プランに基づいた生涯学習社会の推進を継続していく必要がある。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
生涯学習という概念は、個人の生きがいや教養・趣味・レクリエーション活動等に関する主体的な学習だけでなく、急激な社会変化に対応するため市民ひとりひとりが地域と関わり、地域課題・生活課題の解決に向けて一体となった「学びの絆」や、その学びの成果を地域に還元する「学びの循環」が重要となっている。 また、その一方、インターネットの普及により、ネットを介した学びや個の趣味づくりが多くなってきており、地元サークル活動への参加や新規サークルを立ち上げるなど、仲間づくりを行うことが少なくなっている。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
人と人との繋がりの中で、同じ趣味や共通した課題を互いに共有することの重要性や「学びの絆」「学びの循環」の大切さについて、粘り強く啓発を続けていく。

事務事業評価調査

担当課	教育委員会	生涯学習課	人権教育担当	事務事業No.	110417	
事務事業名	人権教育推進事業					
会計	一般会計	款	10	項	4	
				目	1	
総合計画	まちづくりのテーマ	第5節 市民の参画と協働でつくるまち			前期計画掲載頁	95
	施策目標	多様性に満ちた共生社会の実現				
	施策項目	人権教育・啓発の推進				
個別計画	大田市人権教育及び人権啓発に関する基本方針				頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）			
	全市民（地域、学校、企業）		人権教育を通じて市民一人ひとりが人権問題を自分自身の問題としてとらえ、学校、地域、職場、企業が一体となった人権教育に総合的に取り組むことが出来るよう、地域全体で人権意識を培い、人権尊重の精神を高め、一人ひとりを大切にした人権教育の推進を図る。			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進協議会、企業人権教育推進協議会の研修 ・学校人権教育研究委員会による各学校での活動、人権教育指定校の公開授業（2校）の開催 ・市内6地区での人権を考える市民の集いの開催 ・人権作品集「ヒューマンライツ」の作成及び作品集を使った啓発事業 ・市内小中高の実践記録の作成 					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		3,910,094 円		3,813,298 円		3,687,777 円		
財源内訳	特定財源		円		円		円		
	一般財源		3,910,094 円		3,813,298 円		3,687,777 円		
活動指標	指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	人権を考える市民の集い	回	6	6	4	6	66.7%	6
	②	企業人権教育推進協議会	回	1	1	1	1	100.0%	1
③	人権週間ポスター展示	回	1	1	1	1	100.0%	1	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	人権を考える市民の集い	人	1,528	1,523	597	1,500	39.8%	1,500
	②	企業人権教育研修会参加	人	84	64	40	80	50.0%	80
	③	人権教育指定校公開授業	人	94	92	102	90	113.3%	90
	2. 数値で表せない効果（指標①）								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	普通	高い	一部重複	普通			
	点数	3	2	3	2	2	3	継続	15	
		18								
評価理由		<p>・「人権を考える市民の集い」は、平成27年度から会場を学校に変更し、高齢者学級やPTAの協力を得ながら地域と学校が一体となった取り組みを進めている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の事業が中止や規模を縮小しての開催となったが、感染防止対策を徹底し工夫して事業を進めることができた。また、市民の集い参加者へのアンケート調査では、人権問題や人権課題への理解が深まり、問題・課題解決に向けた意識改革が進んでいることが把握できる。今後も様々な機会を活用し、継続して取り組む必要がある。</p> <p>・幼少期から高校生までは、人権感覚を磨くとともに自己有用感を高めることが重要であるため、各園・校が連携して研究活動や情報交換を行い、継続した取り組みを進めている。</p>								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>同和問題をはじめ、女性、子ども、障がい者、外国人などの問題のほか、近年はインターネット等を悪用した人権侵害、子供・高齢者に対する虐待など新たな人権侵害問題が顕在化してきている。また、新たにLGBTsの問題や新型コロナウイルス関連の偏見や差別も生まれている。真に人権が尊重される地域づくりを目指して人権感覚を磨き、人権問題を自身の問題と受け止め自らの行動に結びつけていける学習活動を継続していく必要がある。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>学校人権教育研究委員会については、各校での年間通した実践を基盤とし、市内の小中学校以外に、高校、保育園、幼稚園からも参加協力が得られている。未就学児童から高校生までの人権教育について研究の機会、情報交換、連携ができています。公開授業については、学校教育への理解を含め、一般参加者をさらに募っていく。様々な機会を使い啓発事業を推進しているが、意識の改革と実践を目的としているので、継続した取り組みが必要である。併せて、企業における職場内研修にも期待したい。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習	課	生涯学習・青少年	係	事務事業No.	110421	
事務事業名	補導・環境浄化活動事業							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	2	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築						
個別計画	第7期社会教育計画						15	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	委嘱した補導委員と共に、補導活動をとおり青少年の健全育成を図る。			「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、補導活動をとおり地域全体で青少年を育む機運の醸成を図る。				
主な業務内容	補導委員と共に、青少年が非行化することのないよう街頭補導やPTAとの合同補導の実施。また、見守りや環境浄化活動などを実施。							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度			
	総事業費（決算額）		2,831,465	円	2,765,539	円	2,758,360	円	
	財源内訳	特定財源		円		円		円	
			一般財源	2,831,465	円	2,765,539	円	2,758,360	円
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	街頭補導活動	回	56	56	56	56	100.0%	56
	②								
		③							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①								
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果									
（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	重複なし	普通			
	点数	3	3	3	3	2	3		継続	17
										18
評価理由		青少年の健全育成を図るためにも、街頭補導や見守り等の活動を実施することにより、地域全体で見守っている気運の醸成が図られている。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
高齢化や自治会人口減少により補導委員の選出が困難な地域が出てきている。また、選出されても1年で交代になることが多く、補導活動が定着しがたい。
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
選出方法や活動内容等の見直しについて検討しながらも、将来を担う青少年を地域で見守ることの大切さを理解していただくとともに、地域全体で青少年の健全育成に取り組む啓発活動、体制づくりを粘り強く続けていく。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	生涯学習・青少年係	事務事業No.	110422		
事務事業名	青少年育成事業						
会計	一般会計	款	10	項	4		
		目	2				
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち			前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供					
	施策項目	自由に学び成果を生かせる学習環境の整備と連携体制の構築					
個別計画	第7期社会教育計画					14	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	地域全体による青少年の健全育成			市民運動として地域全体で青少年の健全育成に取り組むまちづくり			
主な業務内容	<p>大田市青少年育成市民会議の事務局として「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、市民運動として地域全体で子ども達を育む機運の醸成を図るため、春・秋の「あいさつ運動」、毎年8月に開催する「大田市青少年市民大会」、地域子育てセミナー、家庭教育懇談会などを開催。</p> <p>また、子ども会や育成会の活動支援として、低廉な利用料でバスを使用できる「子ども体験学習号」の運行を実施。</p>						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		2,772,473	円	2,745,005	円	2,591,879	円	
	財源内訳	特定財源	0	円		円		円	
一般財源		2,772,473	円	2,745,005	円	2,591,879	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	青少年育成市民大会	回	1	1	0	1	0.0%	1
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	子ども体験学習号利用数	件	11	13	3	10	30.0%	10
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果									
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
	点数	3	3	3	3	2	3		継続	17
										18
評価理由		<p>少子高齢化や核家族化など急激な社会変化の中、地域全体で子ども達を育てる重要性が高まっている。</p>								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>少子高齢化や核家族化、共働き世帯の増加により、地域全体で子ども達を支える重要性が高まってきている。そのため、地域全体で子ども達を支える意識のさらなる啓発が必要である。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>地域全体で子ども達を見守る連帯感の醸成を図るため、大田市青少年市民大会など様々な活動をとおしながら、子ども達が抱える問題や課題について学び、意見交換するなかで問題共有を図りながら、子ども達の健やかな成長を願う意識を地域全体で持ち続けるため、粘り強く各種活動を継続していく。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	大町公民館	係	事務事業No.	110433		
事務事業名	大町公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	社会教育の充実と活性化						
個別計画	第7期社会教育計画						10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点としての機能を発揮する。また、住民の地域における課題や思いや住民が主体的に行動する力（自治と活力）を育むことを目的とする。 ・幼児から高齢者までの幅広い年齢層 			<ul style="list-style-type: none"> ・住民の地域課題や要求課題等を踏まえ、暮らしの質を高め、住みよい地域をつくる。 				
主な業務内容	公民館分館事業助成、分館講座の開設支援、文化事業（文化祭の開催・囲碁将棋の普及）、体育事業（市民運動会、球技大会の開催）各種講座の開設など							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		2,307,441 円		2,301,066 円		1,567,720 円		
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		2,307,441 円		2,301,066 円		1,567,720 円			
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	公民館講座	回	87	76	55	80	68.8%	85
	②	体育事業	回	3	3		3		3
③	文化事業	回	3	3	1	3	33.3%	3	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	公民館講座開設	人	2,260	1,574	1,058	1,800	58.8%	1,800
	②	体育事業	人	708	418		800		800
	③	文化事業	人	12,271	11,062	10,458	12,000	87.2%	12,000
2. 数値で表せない効果									
（指標①）例年開設している講座に加え「木彫講座」を新たに開設。6講座を開設し、市民の学習欲求を満たすことが出来た。									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
		高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					
点数	3	3	2	3	2	3	18					
評価理由	住民は自己実現に向けての学習要求を持っている。公民館での取り組みはさまざまな要求課題を解決するものであるため、地域住民の抱える地域課題・要求課題を的確にとらえ、事業に反映することが非常に大切である。市民ニーズを的確に把握し、事業を継続していきたい。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
大町地区市民運動会への参加分館が年々減少しているため、分館に所属していなくても参加できる「オープン参加」を設けた。「オープン参加」には50名ほどの参加があったため一定の効果はあったものとする。但し、全体的な参加者数は少ないため、今後も多くの分館・住民に参加してもらえるような内容の検討が必要。
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
今までの分館対抗を原則廃止し誰でも参加できるよう大町地区を大きく二分した「東西対抗」とする開催方法について、各分館の意見を聞いたところ、分館対抗を望む声が多かったため、今後の開催方法として、分館対抗を残したまま、オープン参加も可能とする方法を検討していく。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響から運動会は中止となった。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	平公民館	係	事務事業No.	110435		
事務事業名	平公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	多様な分野の学習活動の充実と促進						
個別計画	大町市第7期社会教育計画						10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、自治会等 ・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援 			公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す				
主な業務内容	地域住民参加による運動会・市民スポーツ祭等の体育事業を実施。住民の関心・要望や地域課題に取り組む講座を開設。住民の自主的学習活動を支援するためにサークル体験を実施。自治会・育成会・社会福祉等の地域活動の支援およびこれらとの共催により事業を実施。							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度				
	総事業費（決算額）		1,078,991	1,157,535	620,552	円	円		
	財源内訳	特定財源	円	円	円				
		一般財源	1,078,991	1,157,535	620,552	円	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	公民館体育事業	回	6	5	1	6	16.7%	6
	②	公民館講座	コース	9	10	6	9	66.7%	9
③	自主学習活動支援	件	5	3	1	5	20.0%	5	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業参加者	人	1,086	821	42	900	4.7%	500
	②	公民館講座受講者	人	300	340	239	300	79.7%	300
	③	自主学習活動支援サークル	団体	84	84	80	80	100.0%	80
	2. 数値で表せない効果								
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	2	3	2	3	18			
評価理由	<p>地域住民の活動拠点として必要性は高い。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で公民館体育事業のほとんどが中止となってしまったが、公民館の事業は毎年行われている事業が多く、地域づくりを担っている。 また、住民の意見や要望を取り入れながら行っているため効率良く、適正に行われている。 特に個人参加の体育事業や公民館講座事業については、コロナ禍でも需要が高く、事業の必要性を感じている。</p>									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で事業を行うことが困難になってきている部分がある。 ・公民館体育事業では、地元自治会の協力が必要不可欠であるが、高齢化や自治会離れがあり、分館ごとの事業が難しくなっている。また、運動会については年々参加者が減っており、参加者を集めることなどが自治会役員の負担になってきている。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館体育事業については、体育部長会と事業の開催や在り方を協議していく。 ・公民館講座については、需要が高いため、感染症対策を徹底しながら開催していきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	常盤公民館	係	事務事業No.	110437		
事務事業名	常盤公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	社会教育の充実と活性化						
個別計画	第7期社会教育計画						10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	地域住民や自治会等を対象に、生涯学習の機会を提供し、人づくり・つながりづくり・地域づくりの支援を行う。			地域住民にとって最も身近な学習拠点として、ニーズに応じた各種講座の開催や、体育事業及び文化事業を通じた地域コミュニティ力の醸成を図り、生活の質を高め住みよい地域をつくる。				
主な業務内容	①講座（親子教室「ともだち広場」、鍬の峰登山、わら細工講座ほか）、②体育事業（常盤地区球技大会、常盤地区運動会、卓球・ソフトバレー大会）、③文化事業（常盤囲碁・将棋・マージャン大会、サークル活動発表展示会）、④補助事業（分館事業補助金）							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度				
	総事業費（決算額）		948,995 円	865,358 円	485,158 円				
	財源内訳	特定財源	円	円	円				
一般財源		948,995 円	865,358 円	485,158 円					
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業	回	3	2		3		3
	②	文化事業	回	2	2	1	2	50.0%	2
③	講座事業	回	44	30	22	30	73.3%	30	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業参加者	人	1,056	969		1,000		1,000
	②	文化事業参加者	人	388	343	359	350	102.6%	360
	③	講座事業参加者	人	560	645	547	700	78.1%	650
	2. 数値で表せない効果								
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	点数	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					
評価理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館事業の多くが開催できなかったが、地域住民の活動拠点としての必要性は高い。新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら例年より定員を減らし開催した定例講座は、ほぼ定員以上の参加希望者があった。体育事業は住民や関係団体の意見や要望を取り入れ行っており、2年度はコロナのため中止となった。文化事業としては公民館利用サークルが制作した作品をサークル展で展示している。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の開催ができなかった。2年度中止となった運動会については、人口減少等による参加者選考が難しく、多くの人が参加できる縮小や内容を変えたほうが良いとの声もある。文化行事は公民館利用サークルが制作した作品をサークル展で展示しているが、コロナの影響で団体が活動を自粛したため作品数が減少した。定例の講座では、わら細工講座の講師が高齢化してきているため講師の確保が難しくなっている。また地域の歴史や文化を学ぶ新たな講座の開講を希望する声もある。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 運動会は地区で全世代が参加することができる行事なので縮小等しないように競技性や競争よりも親睦を深めることを目的とした参加しやすい内容に随時見直しを行う。サークル活動に繋がるよう住民ニーズに応じた講座を開催する。サークル体験講座を開催し、サークル団体の新規会員を増やすとともに団体活動の後継者育成を支援する。新型コロナウイルス感染症により社会環境が変化し、新たな生活様式が求められ住民ニーズも変化してきているため住民ニーズを的確に把握するように努める。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	社公民館	係	事務事業No.	110439		
事務事業名	社公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	生涯各期における学習活動の充実						
個別計画	第7期社会教育計画						10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、自治会等 ・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援 			公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す				
主な業務内容	①講座（親子教室「なかよし広場」、体力upエクササイズ講座ほか）、②体育事業（社地区球技大会、社地区子ども球技大会、社地区運動会、元旦マラソン）、③文化事業（社地区文化祭）、④補助事業（分館事業補助金）							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		799,325 円		731,432 円		394,960 円		
	財源内訳	特定財源							
一般財源		799,325 円		731,432 円		394,960 円			
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業	回	4	4	4		3	
	②	文化事業	回	1	1	1	100.0%	1	
③	講座事業	回	37	31	25	34	73.5%	31	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	体育事業参加者	人	630	672	636		434	
	②	文化事業参加者	人	333	205	138	260	53.1%	225
	③	講座事業参加者	延べ人数	513	349	312	565	55.2%	391
2. 数値で表せない効果									
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					
点数	3	3	2	3	2	3						
評価理由	地域住民の活動拠点として必要性は高い。 公民館事業は毎年行われている事業が多く、地域づくりを担っている。 また、住民の意見や要望を取り入れながら行っているため効率良く、適正に行われている。											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
①新型コロナウイルス感染症対策のため、計画をしていた事業のほとんどが中止となるなかで、元旦マラソンは感染症対策をとり、定員を減らし開閉会式を中止するなど対策を講じて計画をしたが、降雪のため中止となった。②講座等の学習的な取り組みとしては、社会環境の変化に合わせた関心を持って頂けるような活動内容に加え、現在の情報化社会に合わせた活動内容への取り組みと改善が必要と考える。③体育事業の球技大会や子ども球技大会は、少子高齢化に伴う人口減少、ライフスタイルの多様化により参加者は減少傾向だが、分館対抗の枠組みを無くしている社地区運動会や元旦マラソンは参加者数が増加傾向にある。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
①新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、行実施の可能性を探り事業を実施していく。②公民館の利用促進を図る為、サークル活動化を推進する。受講者のニーズを的確にとらえるための情報収集を心掛ける。③球技大会は、単独では参加出来ない分館同士で合同チームとして参加を要請している。運動会や元旦マラソンなどの体育事業は、地域の枠を超えての参加者が定着してきており、毎年参加を楽しみにしている方々も増えている。更なる発展に向けて、イベント周知の広報活動を充実させていきたい。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	八坂公民館	係	事務事業No.	1104311		
事務事業名	八坂公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	社会教育の充実と活性化						
個別計画	第7期社会教育計画						10	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援 			地域社会のニーズに対応した質の高い公民館事業を推進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、自主グループ等の育成と支援を行う。				
主な業務内容	○体育事業（ふれあい運動会：地域参加なし、体操教室等） ○文化事業（文化祭、郷土ふれあい体験学習等） ○学級講座（子育て学級、高齢者学級、地域文化伝承事業「八坂塾」等） ○その他（子ども会育成会等の団体事業支援、八坂図書館図書貸し出し、サークル活動団体支援や分館活動事業への支援や補助金交付）							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		1,053,343	円	970,020	円	470,705	円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		1,053,343	円	970,020	円	470,705	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	回	5	11	8	8	100.0%	8
	②	文化事業	回	4	4	2	3	66.7%	4
③	学級講座	回	30	27	20	18	111.1%	18	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業参加者	人	590	700	230	600	38.3%	300
	②	文化事業参加者	人	396	487	430	450	95.6%	450
	③	学級講座参加者	人	751	680	463	420	110.2%	450
2. 数値で表せない効果		（指標①）公民館事業の実施により、地域住民の交流する機会が創出され、自治活動の向上や地域の活性化に寄与している。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	2	3	2	3	18			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により事業を中止又は縮小した。（中止：盆球技大会、かるたもちつき大会、春季レクリエーションスポーツ大会、スキー交流会等 縮小：運動会、文化祭、子育て学級、高齢者学級等） ・公民館事業は毎年行われている事業が多く、地域づくりを担い、地域の活性化につながっている。 ・運動会や文化祭をはじめとした各種事業は、実行委員会等を組織して住民の意見や要望を十分取り入れ住民参加型の運営ができるよう取り組んでいる。 									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
少子高齢化と人口減少により、分館（自治振興会）を維持していくことが難しくなっている。 また、ライフスタイルやニーズの多様化からサークル活動が重要となっているが、人口減少等から地域内での育成が難しい状況である。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・体育事業の分館対抗を見直し、複数分館を同一チームとして実施できるよう検討していく。 ・分館参加型の事業を見直し、個人参加型の事業を増やしていく。 ・子どもから高齢者まで手軽に楽しめ、世代間、地域間交流が図られる内容を検討する。 ・学級講座は、地区内のニーズを把握し新規サークルの設立につながるよう取り組んでいく。

事務事業評価調査

担当課	教育委員会	生涯学習課	美麻公民館	係	事務事業No.	1104313		
事務事業名	美麻公民館活動費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画掲載頁	41	頁
	施策目標	生きがいに満ちた生涯学習の機会の提供						
	施策項目	社会教育の充実と活性化						
個別計画	第7期社会教育計画					10	頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、自治会等 ・住民へ生涯学習の機会の提供、地域づくりの支援 			<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業の充実を図り、地域づくりの拠点施設を目指す 				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体育事業「地区・学校・保育園合同運動会、夏季球技大会、冬季スポーツ大会」 ・文化事業「元気アップ講座、地区文化祭、親子教室、高齢者・熟年学級、通学合宿・自然体験教室、介護予防教室共催」 ・分館事業補助 							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		2,515,643	円	3,359,368	円	2,848,517	円	
	財源内訳	特定財源	円	円	円	円	円	円	
一般財源		2,515,643	円	3,359,368	円	2,848,517	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	回	3	2	3	3	3	
	②	文化事業	回	13	17	11	15	73.3%	15
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	体育事業	人	570	550	600	600	600	
	②	文化事業	人	1,294	1,116	672	1,200	56.0%	1,200
	③								
	2. 数値で表せない効果 （指標①）								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	点数	高い	高い	普通	重複なし	普通	適正である					18
評価理由	<p>・地域住民の身近な学習拠点である公民館は、学びの場、親睦の場として必要性が高いことから、これまで住民の意見や要望を取り入れ各種講座や体育事業を実施してきた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの公民館事業を中止せざるを得ない状況であったが、感染予防対策を可能な範囲で事業を実施。あらためて、人と人が交流する機会の創出や地域の活性化等を公民館が担っていることを感じた。</p>											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> ・体育事業は分館ごとの参加者確保が必要になることから、高齢化に伴い、地区役員の負担が懸念される。競技内容、競技方法等について検討が必要と考える。 ・公民館文化事業への参加者も減少傾向にあるので、活動の内容や地域の方のニーズを把握することが重要。 ・少子化による子どもの減少も著しく、親子教室等、今後の事業展開の検討を要する事業がある。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・体育事業の夏季球技大会、冬季スポーツ大会は、分館対抗の枠組みを無くしたり、種目を再検討して開催することも必要。 ・文化事業の講座等については、開催時間、開催日、内容を検討し、休日等の開催も計画する。 ・親子教室等、子どもの減少により開催が難しい事業は、他公民館等との共催などを検討することも必要。

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	市立大町図書館	係	事務事業No.	110443		
事務事業名	図書資料購入事業							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	4	
総合計画	まちづくりのテーマ 第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち					前期計画登載頁	41	頁
	施策目標 芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目 芸術文化の振興							
個別計画	第7期社会教育計画・第4次大町市生涯学習推進プラン						頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	市民が必要とする資料を選定及び購入することにより、図書館の役割を強化し、利用者の増加や図書館活動の質的向上を図ることを目的とする。			知の拠点として、住民の「知りたい」、「学びたい」に応えられるよう、求める情報をいつでも提供できる環境づくりに努め、住民が自ら調べ、考え、行動できる手助けをする。				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズに適合した資料の選定及び購入 ・市民のリクエスト本の購入 ・図書館ならではの専門的な知識を得るための資料の購入 ・図書資料の収集、整理 ・資料の修理 							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		8,307,075	円	8,287,486	円	8,208,774	円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円		
一般財源		8,307,075	円	8,287,486	円	8,208,774	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	図書購入	冊	4,290	3,889	3,799	4,000	95.0%	3,900
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	利用者数	人	35,631	34,802	27,581	38,000	72.6%	32,000
	②	貸出冊数	冊	144,946	146,474	128,225	150,000	85.5%	140,000
	③								
	2. 数値で表せない効果（指標①）								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	高い	高い	高い	一部重複	普通	適正である	16			
点数	3	3	3	2	2	3	18			
評価理由	<p>人口減少・新型コロナウイルス感染症拡大の中で、利用者数・貸出冊数は減少したが、「図書館があって良かった。」「いろいろな本があって楽しい。」という声をいただき住民のニーズは高いといえる。住民のニーズを常に把握した上で、住民が、自ら考え、調査し、学習する一助となる各種講座の開催や、施設訪問による読み聞かせや本の長期貸し出し等により、図書館のニーズがより高まっていると考える。</p> <p>限られた予算の中で、より住民が望んでいる図書の選書を心がける。</p>									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>少子化や活字離れに伴い、中学生・高校生の貸し出し冊数が大幅に減少している。若者の言語能力の低下、勉強意欲の減退など、知的水準が落ちていると危惧されている。子どもだけでなく大人にも「読書離れ」の傾向が認められる。また、立地の問題もあるが、昨今、図書館は複合施設として多様な役割を求められているが、当館は単館として機能しているため、大幅な利用者増は望めない状況にある。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>図書館は社会教育機関の役割と地域の情報拠点の役割との2つの役割がある。その機能を一層充実させるためには、地域との接点を創り出していくこと、そのために、学校を含めた他の公共施設との連携を促進するとともに、資料を計画的かつ系統的に収集し、市民のニーズに応えるため、新聞やAmazonなどの書評や企画展示、講座の開催に併せて本を選書することにより、より魅力的な蔵書構築を図る。また、中高生向けの図書を積極的に収集し、その世代の興味、関心を引き出し、知的好奇心を引き出す資料収集に努める。</p>

事務事業評価調査

担当課	教育委員会	生涯学習課	文化会館	係	事務事業No.	110453		
事務事業名	文化会館公演事業							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	5	
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	45	頁
	施策目標	芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実						
	施策項目	芸術文化の振興						
個別計画	第7期社会教育計画						34	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	基本、大町市民を対象とするが、同規模の文化ホールが近隣市町村にないことから、広域的な利用についても対象とする。			舞台芸術に触れる機会の少ない市民が、気軽に楽しく芸術文化に触れあうことができるよう文化会館を中心とした継続的な芸術文化活動を促進すると共に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する。				
主な業務内容	ミュージカル、落語、クラシックコンサート、ポップスコンサート等の公演の開催。市民文化芸術活動の発表の場の提供							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		26,499,905	円	12,655,049	円	6,433,108	円	
財源内訳	特定財源	8,380,356	円	1,483,149	円		円		
	一般財源	18,119,549	円	11,171,900	円	6,433,108	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	自主共催事業	回	12	16	7	10	70.0%	10
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	自主共催事業入場者数	人	8,028	6,868	2,318	6,000	38.6%	6,000
	②	文化会館利用回数	回	89	83	44	100	44.0%	100
	③	文化会館入場者数	人	28,687	30,225	8,493	30,000	28.3%	30,000
2. 数値で表せない効果									
（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	普通	重複なし	高い			
点数	3	3	2	3	3	2	18			
評価理由		<p>○市民の文化活動発表の場であるとともに、日頃接することの少ない芸術性の高い舞台芸術や娯楽の場として、必要性は非常に高いと思われる。また、近隣市町村において同規模のホールが存在しないことから、広域にわたっての必要性が考えられる。</p> <p>○今後の運営について、直営で進めるのか指定管理者制度の導入が適当かなどについての検討が必要と思われる。</p>								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>市民の文化活動の発表の場であると共に、日頃接することの少ない芸術性の高い舞台芸術や娯楽の場としての位置づけがある。市民の芸術文化活動は、人口減少や高齢化により停滞気味であり芸術文化協会の活動を支援しながら活性化を図ることが必要。優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する場としては、今後も優れた作品を数多く提供するため、比較的安価に提供できるよう方策を講ずる。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>優れた舞台芸術鑑賞機会の場を増やすために、通常の自主文化事業に加えて公演料を負担せずに実施できる共催事業を多く実施していく。</p> <p>広く芸術文化を担う人材育成のため市芸術文化協会の組織強化を図る。</p>

事務事業評価調書

担当課	教育委員会	生涯学習課	文化財係	事務事業No.	110462			
事務事業名	文化財保護一般経費							
会計	一般会計	款	10	項	4	目	6	
総合計画	まちづくりのテーマ 第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	46	頁	
	施策目標 芸術・文化・スポーツに親しむ機会の充実							
	施策項目 文化財の保護継承と活用							
個別計画	第7期社会教育計画						36・38	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	文化財や地域の歴史や民俗・文化、自然に接し、学ぶ場を設けることにより、地域の文化財等の保護の促進と積極的な活用による地域の振興を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財等が適切に保存・保護・継承されること ・文化財等を活かした地域振興を図るとともに、地域の良さを再発見し、郷土への愛着や誇りが醸成されること 				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財に関する講座、観察会等の開催 ・指定文化財、未指定文化財等の調査と研究、活用方策の検討 ・指定文化財等の維持管理及び所有者等の保存修理、保護活用に対する支援（補助事業） 							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）		6,234,935	円	11,160,814	円	4,592,842	円	
	財源内訳	特定財源	円	円	円	円	110,000	円	
一般財源		6,234,935	円	11,160,814	円	4,482,842	円		
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	文化財講座開講数	回	5	5	5	5	100.0%	6
	②	自然観察会開催数	回	3	3		3		3
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	文化財講座受講者数	人	102	56	123	100	123.0%	120
	②	自然観察会参加者数	人	60	59		60		60
	③								
	2. 数値で表せない効果		（指標①）地域住民との協働による文化財や地域の歴史文化の情報発信活動や保存活用活動が進んできている。 （例）展示館の開館、研究会の発足と保存活動の展開、歴史的建造物を中心とした観光コンテンツ作り						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	15
	点数	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である					18
評価理由	従来からの文化財の保存・保護を中心とした考え方に加え、文化財を活かして地域の歴史・文化を情報発信することにより、地域観光の振興を図るとともに、地域の良さを再発見し、郷土への愛着や誇りを醸成するための取り組みが始まっている。（例）①国宝仁科神明宮の保存修理事業に伴って、神明宮をはじめとする地域の歴史文化を紹介した文化展の展示を基にした、地域の歴史文化を紹介する展示館の開館、②文化財講座の開講をきっかけとした木舟城研究会の発足と保存・情報発信活動の展開、③地域の歴史的建造物等の調査と水や景観と併せた歴史文化の散策路等の観光コンテンツの作成準備											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
保存修理や環境整備等のための補助事業を実施しているが、所有団体等の関係者の減少や高齢化により、自己資金の捻出が厳しくなっているため、将来にわたっての維持保存を続けていけるのか心配される。 伝統文化に対する補助事業の実施により、無形民俗文化財の継承活動を支援しているが、少子化や高齢化により民俗芸能等の伝授者、継承者、参加者が減少しているため、継承が難しくなることが心配される。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
地域全体の財産である文化財等を後世に伝えていくため、引き続き、文化財講座や保存修理事業等を実施し、文化財保護に関する意識の醸成を図り、保存整備に関する理解を深めるとともに、所有者との連携を図り、地域資源としての活用を検討する。 文化財講座について、現地見学の実施等、充実した内容となるよう、引き続き検討する。 地域の伝統文化や伝統芸能への補助事業の実施により無形民俗文化財の継承活動を支援するとともに、調査や記録、保存活動の実施を検討する。